

2級建築士

1. 講座の概要

2級建築士は、大きく「学科」と「製図」があり、それぞれ「無料講座」と「会員講座」がある。

過去問は、建築技術教育普及センターとの許諾条件から会員講座のみでの公開である。2級建築士の講座は、2017年1月にセンターから過去問の使用許諾を頂き開講した。1級建築士同様に毎年、最新の問題を公開する。

2級建築士の講座は、H19から最新年度の過去問を解説している(下表参照)。2018年のH29年度問題を組み込むと、過去問11年間分となる。1級建築士が過去問20年分をとりまとめているのに比較して、少ない年度である。これは、2級建築士の合格率が1級建築士と比較すると、約3倍と高く、2級建築士の学科試験は、過去問10年程度で合格可能であると判断している。

以下に、1級建築士と2級建築士の合格率を示す。

- ・1級建築士(H28合格率):学科=16.1%、製図=42.4%・・・ストレート合格なら **6.8%** と弁護士並みの難易度
 - ・2級建築士(H28合格率):学科=42.3%、製図=53.1%・・・ストレート合格でも **22.5%** と難易度が低い
- 過去数年の2級建築士の合格率は、学科30～40%、製図50～55%、最終20～25%である。

製図試験の予測課題については、1級建築士の製図解説と同じように、「80%以上ズバリの中する項目別の予測課題の解説」をする。ただし、その予測課題は、現段階では、1点予測課題の取りまとめとなっている。

2級建築士は、大学、短大、高等専門学校で指定科目を修めた方は、実務経験0年で受験できる。高等学校で指定科目を修めた方は、実務経験3年で受験でき、学歴がない方でも実務経験7年で受験できる。

つまり、

- ・7年経験⇒2級建築士
- ・4年経験⇒1級建築士
- ・5年経験⇒設備・構造設計1級建築士

で全ての建築士の資格が取れる。

志を持たれた方は、当HPを活用して、2級建築士取得後に1級建築士の取得を目指しませんか。

当HPは、1級建築士の講座が最も充実している。2級建築士取得後から1級受験までは、4年間であるが、その間、当HPを活用して1級建築士1発合格を目指しませんか(その間の費用は、4年間延長費×1万円/年=4万円とリーズナブルである)。

2級建築士(学科無料講座)

- 1章 学科試験の現状把握
- 2章 4科目の項目別問題別一覧表(H19～最新年度)
- 3章 過去問の出題法文一覧表(H19～最新年度)

2級建築士(学科会員講座)

- 1章 4科目の項目別問題別一覧表(H19～最新年度)
- 2章 過去問10年の出題法文一覧表(H19～最新年度)
- 3章 4科目全問題のポイント一覧表(H19～最新年度)
- 4章 II法規の過去問10年の出題法文一覧表(H19～最新年度)
- 5章 4科目の過去問10年の出題問題一覧表(H19～最新年度)
- 6章 年度別の問題と解説(H24～最新年度)

2級建築士(製図無料講座)

- 1章 製図試験の現状把握

2級建築士(製図会員講座)

- 1章 センター出題課題(H24～最新年度)
- 2章 センター標準解答図(H24～最新年度)
- 3章 センター出題課題の項目別分析(H24～最新年度)

2. 講座の一部紹介

2級建築士の学科および製図の講座から、下記に一部紹介する。

学科:4科目における過去問(11年)の項目別一覧表

製図:過去問分析の「1. 設計条件」の過去問一覧表 ⇒過去問分析表は会員講座内のみでの公開

2級建築士 4科目における過去問10年の項目別一覧表

表1 I計画の項目別一覧表(平成19年～平成29年)

NO	項目分類	年度										出題数 (個)	出題確率 (%)	
		H19 (問目)	H20 (問目)	H21 (問目)	H22 (問目)	H23 (問目)	H24 (問目)	H25 (問目)	H26 (問目)	H27 (問目)	H28 (問目)			H29 (問目)
1	日本建築作品	1	1	1	1		1	1	1,2	1	2	1	11	4.0
2	西洋建築作品					1	2	2		2	1	2	6	2.2
3	用語・環境総合	2,9	2	2,9	2	2,9	3	3	3	3	3	3	14	5.1
4	伝熱	5,6	5,6	5,6	5,6	5,7	5,6	5,6	5,6	5	4,5	5	20	7.3
5	空気・換気	3,4	3,4	3,4	3,4	3,4	4	4,8	4	4,6	6	4,6	19	6.9
6	日照・日射	7	7	7	7	6	7	7	7	7	7	7	11	4.0
7	色彩・照明		9		9		8		8	8	8	8	7	2.5
8	音響	8	8	8	8	8	8	9	9	9	9	9	11	4.0
9	屋外気候							10	10	10	10	10	6	2.2
10	住宅計画	10	10	10	10	10	10	11	11	11	11	11	11	4.0
11	集合住宅計画	11	11	11	12	11	12	12	12	12	12	12	11	4.0
12	事務所・商業施設	13,14	12,13	12,13	11,13	12,13	13	13	13	13	13	13	16	5.8
13	公共施設	12,15	14,15	14,15	14	14,15	14,15	14	14	14	14	14,15	17	6.2
14	その他施設			17				15	15	15	15		5	1.8
15	寸法・平面計画		16	16	16			16	16	16	16	16	8	2.9
16	高齢者対応	16	17,18		15	16	16	16	17	17	17	17	11	4.0
17	その他計画	17,18		18	17,18	17,18	17,18	17	18	18	18	18	14	5.1
18	設備用語	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	11	4.0
19	空調設備	20	20	20	20	20,21	20,21	20	20,21	20,21	20,21	20,21	17	6.2
20	給排水設備	21,22	21,22	21,22	21,22	22	22	21,22	22	22	22	22	16	5.8
21	電気設備	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23,24	12	4.4
22	防災設備	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24		10	3.6
23	環境配慮・省エネ	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	11	4.0
	合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	275	100

注1) 項目分類は同類問題の名称を示す。H(平成)は出題年度を示す。表内数値(1～25)は問題番号を示す。

2級建築士 設計概論【過去問分析(1)】「1. 設計条件」の過去問一覧表

過去問分析について

製図試験で重要なことは、**問題をよく読み解く**ということである。
問題をよく読み解くための最も効果の高い方法は、過去問の分析である。学科試験も過去問分析が王道というように、製図試験も過去問分析は必須事項である。逆の言い方をすると、製図試験を受けるに当たり、過去問分析をしないで行くことは非常に危険であると言える。

過去問は、試験制度の見直しとなったH24から現在までの全てを分析する。この取りかたは、1～2週間毎度の時間を要するが、研究の資料は、その時間をゼロにできると思って頂くのがよい。週お休み1日を休めてこの資料をゆっくゆっく読んでいただく。H24～現在の過去問が増えるようにまとめている。最初に過去問の題意を解んでも、読んでいくだけで内容が把握し難い。研究の資料は、問題を下取りの項目に分けて、その項目ごとに全ての過去問を一覧表にまとめて、詳細な分析を可能にしている。読むだけでその項目の全体像が見えてくる。

- [過去問分析(1)] 1. 設計条件
- [過去問分析(2)] (1) 敷地
- [過去問分析(3)] (2) 隣地、隣接及び隣接物の高さ
- [過去問分析(4)] (3) 防火距離
- [過去問分析(5)] (4) 人員構成等
- [過去問分析(6)] (5) 要配慮
- [過去問分析(7)] (6) 階段、エレベーター及びスロープ
- [過去問分析(8)] (7) 屋外施設等
- [過去問分析(9)] 2. 要配慮等

「よく読む」は、要求書の条件を間違えないことだが、**出題者の意図**を察知することも含まれる。1項目だけの過去問全てを覚えると、その出題パターンが見えてきて出題者の意図が分かるようになる。この項目の定題文は、毎年どこか分けて掲載されているが、必ず分かるようになる。
「よく読む」は、その項目での定題文をしっかりと把握することで、定題文以外をチェックするようになる。この読みかたである。過去問に読む時間の半分以下の時間で問題を解けるようになる。製図は、**時間勝負の試験**であるので、「よく読む」能力は試験前に訓練すべき事項であり、定題文把握が一番効果のある学習法である(問題文の多くの部分は定題文である)。

問題文

「問題文」からは、大きく鉄筋コンクリート造か、木造かが、階数に分かれる。これは、問題発表時に判明するので、該当する過去問を学習して、鉄筋コンクリートの図面または木造の図面を書けるようにする。
過去問の出題は下記の通りである。

- H24:鉄筋コンクリート造 2階建
- H25:木造 2階建
- H26:木造 2階建
- H27:鉄筋コンクリート造 3階建
- H28:木造 2階建
- H29:木造 2階建

1. 設計条件

「1. 設計条件」は、この製図試験の計画地の建築条件や設計目的などが書かれている。
大きくは、**前文(留意(備考書き))**の2つの構成となっている。
この前文は、毎段の条件がないことから、何気なく読み替える方も多いが、実は設計上かなり**重要な方針**が書かれているので、注意して読む必要がある。
前文は、「この地方・・・計画する。」となっている(各年度の内容は下記の通りである)。その後、強調したい内容がある場合(H24、H25、H27)は、補足文が追加されている。この前文は、全体で約80～120文字の内容となっている。その後、「計画に当たっては、次の①～⑦に特に留意する。」が書かれている。

- H24:ある地方都市において、・・・を計画する。
- H25:ある地方都市の住宅地において、・・・を計画する。
- H26:ある地方都市の住宅地において、・・・を計画する。
- H27:ある地方都市の商店街において、・・・を計画する。
- H28:ある地方都市の中心市街地に住宅地が、直で1時間ほど離れた景勝地において、・・・を計画する。
- H29:ある地方都市の住宅地において、・・・を計画する。

計画の留意事項は、下記のような**共通事項**が見えてくる。

【共通事項①:耐震性】

H24:H25前は、毎年、最後の備考書きで「耐震性」が書かれていた。
H26:当然「耐震性」に考慮した設計をする必要があり、当然の内容として削除された可能性がある。H29は、削除されているので、今後も書かれない可能性がある。

- H24:①建築物の耐震性を確保する。
- H25:②建築物の耐震性を確保する。
- H26:③建築物の耐震性を確保する。
- H27:④建築物の耐震性を確保する。
- H28:ー
- H29:ー

【共通事項②:アプローチ】

「アプローチ」は、外観を指示するものである。

- H24:②公園からも、施設を直達利用・・・
- H25:③レストラン部分の専用出入口へのアプローチ・・・
- H26:④道路から玄関へのアプローチ・・・
- H27:①店舗部分の専用出入口への主たるアプローチ・・・
- H28:ー
- H29:①駐車スペースから玄関へのアプローチには屋外スロープを計画し・・・

【共通事項③:主な要配慮】

「主な要配慮」の条件は、この留意に書かれている。
ここに書かれている要配慮は、その建築物で要配慮である出題者が書いていることなので、試験では、この要配慮に赤マークなどをし、「要配慮事項」にも同じ赤マークをして重要であることを印象的に認識した方がよい。

- H24:①視覚系スペース、屋外リフトデッキ、②多目的スペース(災害時利用)
- H25:①レストラン部分、住宅部分、②客室、屋外デッキ(災害時利用)
- H26:①要配慮の配置・動線、廊下の幅、売場スペース、客室専用便所、②要配慮の床高
- H27:①共用コア、②関係スペース、店舗、③関係コーナー、屋外プレイスペース、屋外プレイスペース
- H28:①防犯(夜逃げ)、土間スペース(多目的利用)
- H29:①防犯、災害等、②多目的(防災、要配慮者の確保)